

は し が き

この集録は、本年度における「理科定期研修」の研究成果をまとめあげたものであります。

「理科定期研修」は、当教育センターが実施している研修事業の一環であり、研修員と所員が一体となって行う共同研究の形をとっております。すなわち、この研修は小・中学校における「理科教育の実践的課題」を主題として、いくつかのチームを組み、当教育センターの研究を基にしながら、授業研究を通して究明しようとする立場をとっております。これらの研究を通して、指導内容に検討を加え、教材の本質を明らかにすると同時に、理科指導改善の方途を探ろうとするものであります。

共同研究としての「理科定期研修」を始めてから早くも9年も経過しますが、本年もまた多数の応募者から選ばれた小・中15名の研修員を迎えて実施いたしました。

小学校関係の昨年までの研究では「問題解決をとおして、自然に対する見方、考え方を高めるための手だてはどうであつたらよいか」「児童1人ひとりという視点から見直したとき、どのように深めたらよいか」などの観点で実践的に追求してまいりました。

今年度はこれらの研究をふまえて「教材の本質を明らかにしながら、自然認識を深めるための手だてはどうであつたらよいか」の観点で実践的に追求しました。したがってここに収めた小学校関係の2編の論文は、いずれも今後の理科の授業や教材研究に、直接役立つものと信じます。

なお、この研究は紙面の都合で、その意とするところをじゅう分に尽くすことができないものもありまた、内容については至らない点多々あることと思います。率直な御批判と御指導をいただければ幸いです。

おわりに、多忙な校務のなか、この研究に参加し、終始熱心に研さんされた研修員の方々の努力と熱意に対して深く敬意を表します。さらに、研修員所属校の校長先生はじめ諸先生からいただいた御支援と御協力に対し、心からお礼申し上げます。

昭和52年1月20日

新潟県立教育センター所長 北川正司